

活用事例 9

学校教育目標の達成に向けた「ほっと」の活用

「ほっと」活用のポイント

- ☑ 教育相談の充実
- ☑ 文化祭等の学校行事における異学年交流を通じたリーダーの育成

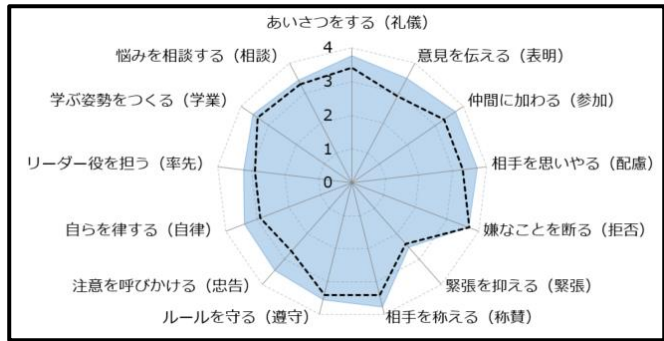
取組の実際

1 「ほっと」による傾向と分析

第1学年の生徒を対象に7月に「ほっと」を実施した。

【傾向と分析】

- ・ 全ての項目で道内平均よりも高い
→ 小・中学校間の学習や生活状況等の引継ぎの工夫改善を行ったことによる結果と考えられる。



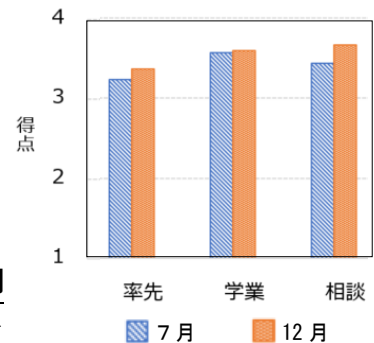
2 分析結果に基づいた取組

生徒の状況を把握するために「ほっと」の結果に加え、いじめアンケート調査や「心と身体のチェック」の結果などから、多面的・多角的に生徒の実態を把握した。複数の調査結果の分析から、「悩みを相談する」ことに課題がみられたことから、相談体制の充実を図った。

また、学校教育目標との関連を図り、学校行事を通してリーダー役やフォロワー役を体験する場面を意図的・計画的に位置付け、指導の充実を図った。

3 取組の成果

- 定期的な教育相談に加え、長期休業終了後や定期テスト終了後に教育相談を行い、生徒一人一人が抱える個別の困難や課題に向き合ったことにより、12月に実施した「ほっと」では、「悩みを相談する (相談)」の得点が0.3点上昇するとともに、「学ぶ姿勢をつくる (学業)」の結果についても7月の得点を上回った。
- 文化祭等の学校行事における異学年交流を通して、リーダーやフォロワー役を体験し、リーダーとしての責任やフォロワーとしての役割の自覚を促したことにより、12月に実施した「ほっと」でも「リーダー役を担う (率先)」の得点が0.2点上昇した。



「ほっと」活用のポイント

- ☑ 各学級の実態把握及び教育相談の充実
- ☑ 生徒主体の活動の充実による自己肯定感の高揚

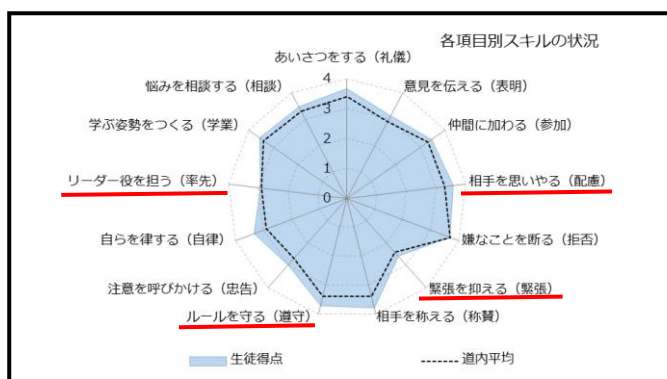
取組の実際

1 「ほっと」による傾向と分析

全学年の生徒を対象に7月に「ほっと」を実施した。(右図：第3学年)

【傾向と分析】

- ・学校全体として「遵守」「配慮」の得点が高い
→全学年に共通して落ち着いた学習環境にあり、「ルールを守る」「相手を思いやる」
意識が高い生徒が多い。
- ・「緊張」や「率先」の得点が高い。
→相手に配慮しすぎるあまり、自身の思いを表出できない生徒が散見される。



2 分析結果に基づいた取組

全項目において、全道平均と比較し高い傾向にあるが、「緊張を抑える」及び「リーダー役を担う(率先)」の得点が高い現状があることから、学校行事や生徒会活動等の取組で、生徒一人一人が主役となり、自己肯定感の高揚が図られるよう、各学級において構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動を推進し、望ましい人間関係づくりを充実させた。

「ほっと」の分析結果を基に教育相談(年2回の定期相談や機会を捉えた個別の相談)の充実に努めた。また、月ごとの生徒指導委員会や学年部会で分析結果の全体共有を図り、適切な生徒理解に努めた。

3 取組の成果

- 12月に実施した「ほっと」では、上記に例示した第3学年の学級において、「良い関係を保つ力(関係維持)」の得点が3.2点上昇するとともに、「仲間と高め合う力(仲間強化)」の得点が3.5点上昇するなど、生徒同士の関わり合う力を育成することができた。
- 小中連携事業による児童・生徒の交流や、生徒会主導による学年交流を推進したことにより、同学年において、「リーダー役を担う(率先)」の得点が0.4点上昇するとともに、各種アセスメントツールを活用した組織的な教育相談の充実に努めたことにより、「悩みを相談する(相談)」の得点が0.2点上昇した。